

保育所待機児童対策について

1 現状と課題

本市の人口は上昇傾向にありますが、0～5歳人口は減少傾向となっています。

保育所の申込児童数は、これまで上昇傾向で推移してきましたが、近年は横ばいとなっており、新規申込は年度により増減をしている状況です。

また、3歳児以降の認可定員については、2歳児の定員より下回る状況にあり、保育所等の整備による定員の不均衡を解消する必要があります。

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
R6 認可定員	190	304	338	311	316	319	1,778

R6 認可定員 2歳児 - 3～5歳児 27人 22人 19人

2 保育所の整備

待機児童対策として、保育需要見込みと、認可定員の不均衡を勘案し、課題の解消を図る必要があります。

【保育需要見込み、認可定員の不均衡】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
R6 待機児童							
+	9	55	20	9	3	0	96
特定保育園希望							
認可定員不均衡	—	—	—	27	22	19	68
計	9	55	20	36	25	19	164

【整備計画】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
①認定こども園	0	12	12	22	22	22	90
②古新田保育所	0	7	6	4	4	4	25
③認可保育所	3	10	10	19	19	19	80
④認可保育所	3	5	6	18	19	19	70
計	6	34	34	63	64	64	265

①：令和7年度開所 ②：令和8年度拡充 ③④：令和8年度開所予定

3 整備の効果

待機児童の解消を図るとともに、全ての年齢で次年齢の定員数が上回り、定員の不均衡が解消される。

【認可定員】

単位：人

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
整備前	190	304	338	311	316	319	1,778
整備後	196	338	372	374	380	383	2,043